

○大道寺 信委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

大田区とは工業、経済とか産業の分野での連携ということも、今、一生懸命やってらっしゃるわけですが、ぜひこういった市民サービスの分野においても、さまざまな情報交換をしながら、足りないところも確かにあると思います。こういう場合、どうすんだ、ああいう場合、どうすんだということもあると思いますが、それは長井で独自にとられる対策があれば、いろいろ、先ほどの話でも、医療機関なども連携してもらって、長井なんかはできる余地があるんだろうななんていうこともちょっと考えたりもしますので、さまざまなアイデアをこれから市内外からも募りながら、ぜひ政策のほうに生かしていただければということをお願い申し上げて、質問を終わります。ありがとうございました。

町田義昭委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位2番、議席番号10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 よろしくお願ひします。

時間的にそんなにかからないような質問内容でございますので、ちょっと感じたこと、思ったことを最初に申し上げたいなと思います。

6月議会の折かあるいは3月議会の折に、ことしは楽しみなことがあるんですというようなことを申し上げた記憶がございます。それは、昨年度、道照寺平スキー場に梅津議員のいい種子をいただいたコスモスが、若干ではありましたが、成育したというようなことで、その種がこぼれて、ことしは大きくにぎやかに成長するんじゃないかなという期待感を持ってこの半年ですか、過ごしてきたんでありますけれど

も、13日の土曜日、平野小学校の運動会の後にちょっと見に行きましたけれども、残念な結果というようなことで、非常に厳しいもんだなというふうに思いました。

ヒュッテの南のほうの平らなところには大分成長しておったんですけども、それでも30本ぐらいいかなと、そんなように思いました。そして、一番見てほしい、見てくれというようなところの第1リフトのところ、去年は結構咲いたんですけども、ことしは一輪もなかったというようなことで、別に除草剤散布のせいにはしているのではないんですけども、やはり土壌が岩だらけだということなことで、なかなかああいうものは成育しないのかなと、非常に残念だなというふうなことで、再度挑戦をするなんていう気には今のところなっておらないんですけども、これから何かの形であそこをまた少し考えていきたいなって、そんなふうに思っているところでございます。

きょうの気温は、半袖では本当に寒いような状態でありまして、私も議員になって、9月の議会がこんなに適温で過ごされるというような環境は一度もありませんでした。いいのか悪いのか私はわかりませんが、ことし長井市の議会に合った天候になってくれたのかなと、そんなように今、思っております。

テーマといたしましては、フラワー長井線の利用拡大の成果についてというようなことを取り上げさせていただきました。

第三セクターになって、フラワー長井線が今まで行政並びに市民の方々の協力によってここまで経過してきたということに対して敬意を表するわけでございます。とりわけ私的に考えますと、目黒市政までのフラワー長井線の利用拡大というものは、どちらかというと消極的な利用拡大政策というものであったのではないかなと、そういうふうに理解しております。そして、内谷市政になって積極的な利用拡大の施策に方

向を転換されたと、そのように理解しているんです。

と申しますのは、別に消極的な政策が悪いとかいいとかということではないんですけれども、やはり沿線の皆さんに働きかけて、その範囲内で乗車率の向上を目指したということについては、やはり消極的な政策だったのかなと思ってますし、内谷市政になってからは観光事業というものを取り入れながら、それにプラスアルファ、そうした事業の拡大、利用の拡大を施策の中心になされたということについては物すごくよい政策でなかったのかなというふうに理解をしておるんでありますけれども、ちょうど旅行会社経験のある方を社長に招致しての経営形態の改善ということについて、非常に市民の方にも希望を与えるような政策ではなかったのかなと、そして期待予感を与えた政策であったと、そのように認識しております。その成果がどの時点で出るのかというのは、私はわかりませんが、市長はどのようにその点を考えているのか、その点についてもわからないんですけども、ちょうど6年ぐらい経過したのではないかと、そのように思っているわけで、やはり何らかの光が見えてくるとか、表には出てこないんですけども内々的には見えてくるものがあるというふうに感じなければならぬ状況なのではないかなと、そのように思っているんですけども、その点について、市長はどのような認識を得られているのかお聞きをしたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、町田委員のほうにお礼を申し上げたいというふうに思います。久しぶりにフラワー長井線のご質問といいますか、ご提言をいただいたということで、大変ありがたいというふうに思っています。

確かに、以前は高校生がどんどん減っていく中で、何とかその沿線の住民の皆様がマイレール意識を持ってご利用いただくということを

中心にやってきて、これはこれで正しい利用促進のあり方なんでしょうけども、残念ながら、これぐらい車社会になりますと、なかなかこれは伸びなかったということで、野村社長が就任して、この6月に丸4年を迎えて、5年目にまた再任いただきまして、5年目にことし入ったところです。フラワー長井線の利用客の動向については後ほど企画調整課長のほうからもあるかとは思いますが、簡単に言えば、ことしフラワー長井線、第三セクターになって27年目ですが、27年前は、昭和63年は140万人の、延べで利用者、これはことし65万人です、半分以上に減っています、それぐらい高校生、がっつ落ち込んでいます。

ただ、やっぱり鉄道は装置産業ですから、その部分はある程度はいわゆる経営改善といえますか合理化、人も含めてそういったことをもうこれ以上できないというところで野村社長が就任して、沿線住民プラスやっぱり観光のお客様ということで行ってまいりました。就任したのが平成21年なんですけど、平成21年の7月に就任しました。残念ながら、そのときは観光シーズン終わってしまっていたので、仕込みに6カ月、実際、最低3カ月前に営業はしとかなきゃいけないということなもので、22年から実際のところ営業成果が出てきたと思っています。2009年とか2008年、2007年あたりから野村現社長が山形のある旅行会社の所長をされていたときに、フラワー長井線を一生懸命、応援をしまして、そのときから、平成18年には9,000人ぐらいしか観光の利用客っていなかったのが、平成19年あたりから1万5,000人ぐらいになりまして、そこから少しずつ増えてきました。就任して成果が出た次の年、大体3万人ぐらいまで観光客をふやしました。

ところが、平成23年に例の、次の年ですね、就任して2年目にあの大震災があって、風評被害でがたがたでありました。ただし、その際に

助かったのは、JR東日本と連携を組ませていただいて、ウイークエンドパスというのがあるんですね、土日の切符で乗り放題で1万8,000円という非常に有利な、往復ですね、首都圏、この辺ですと1万8,000円ですね、それがローカル線も乗り放題なんです、それにフラワー長井線、山形鉄道も参加させてもらったと、これによる収入が、23年、24年、25年の3年間で恐らく3,000万円から4,000万円ぐらい、トータルですけれども、いただいていると、この部分が非常に大きかったろうと。ただし、昨年あたりから今度は観光バスの事故で、ワンマンで長距離はだめだということで、日帰りの観光バスのツアーがなかなか厳しいということで、かなり25年度は苦戦したようです。

状況としてはそんなところですが、まず、おかげさまで全国にPRできたということですね、本も書きましたし、いろんな雑誌とか新聞に取り上げられていただいて、フラワー長井線というのは県民にも、沿線住民はもちろん全国に知名度が上がったというのは大きな効果だったと思っております。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 フラワー長井線のPRはもちろんでありますけれども、それなりの実績と成果というものはあったと思うというふうな、市長から今、お話をいただきましたんでありますけれども。

企画調整課長にお尋ねしたいんですけども、ここ数年の乗客数とか事業費の状況というものはどのようになっているのかお知らせください。

○大道寺 信委員長 谷澤秀一企画調整課長。

○谷澤秀一企画調整課長 ここ数年の乗客数及び事業費ということでございますので、平成22年度からデータをとっております。平成22年度全体では74万1,000人です。このうち通学の高校生が70%で、51万9,000人でありました。これが23年には全体で73万5,000人、高校生が52万

1,000人、それから24年度全体で70万5,000人、高校生が50万5,000人、25年度が64万1,000人が全体で、高校生が44万9,000人と、割合的には70%ぐらいなんですけど、どんどん減ってるというふうな状況でございます。

それから、事業費についてですが、収入と支出、それから財政支援額というふうなことで、これも22年度からご説明いたします。

収入につきましては、鉄道事業、あと観光事業、旅行事業、商品販売事業、広告事業などございますが、平成22年度が2億5,783万8,000円、これに対して支出が、支出については修繕費、人件費などありますが3億3,498万1,000円で、財政支援額は22年度が6,350万円ということでした。平成23年度の収入ですが2億7,142万7,000円、支出が3億2,497万3,000円、財政支援額が4,140万円でございます。平成24年度が収入2億5,714万3,000円、支出が3億2,357万2,000円、財政支援額が5,570万円。そして、直近の平成25年度、収入が2億3,356万6,000円、支出が3億3,085万5,000円、財政支援額が8,754万6,000円というふうな状況になっております。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 今お聞きしたお話の中では、確かに乗客数はそんなに極端には減ってはいないということは、やっぱり成果の一つではないかなと認識するんですけども、この高校生の減っているというのは、これはいたし方ないわけで、将来にわたってもこれから今30%ぐらいは減ってくるという確率じゃないのかなと、それ以上はもしかすると減らないのかもしれないけども、底打ちというものはあるかもしれませんけども、当面は3割ぐらいは減るんだろうという状況を考えたときに、やはり今できる対策というものは必ず考えていかなければならないんじゃないかなと、じり貧に収入も減りということでは、財政支出が当然限られた中でしてい

なければならぬと。県の支援だって、そんなに今以上の期待というものは果たしてできるのかというのは不確かなところありますし、そういう点について市長はどのように考えておられるのかをお願いします。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員おっしゃるように、高校生は減っても経費はなかなかこれ以上減らすことができないという厳しい状況ですが、だからといって行政からの負担と申しますか、支援ふやせばいいかと、そういうわけにもいかないということで、非常に難しい状況だと思っています。

ここで今、検討されているのは、2年前からいろいろ検討をしているんですが、上下分離方式ということで、いろんな考え方がそれぞれ、県は県、沿線の市町村あるいは山形鉄道、考え方が、ちょっとやり方がいろいろあるものですから、まだ方向性は決まってないわけですけども、私は、上下分離方式というのがこれからの存続させる意味では非常に大きな柱になるんだろうと思っています。

これ簡単に申し上げますと、いわゆる山形鉄道が責任を持つのは、汽車を走らせることだけと、それ以外の鉄道の設備なり、場合によっては車両も、あるいは駅とかそういったものについては全部行政側で持つということなんです。完全上下分離方式というのを私としてはこれやるべきだろうと。これは、私ども出資している市町村も鉄道事業者になるということです。私どもが第3種の鉄道事業者になると、山形鉄道は第2種ということなんです。第1種というのは、恐らく全部やると、自前でやるということなんです。私どもも第3種の鉄道事業者になりますと、まず、国のほうから交付税措置がいただけると、それから、当然県の役割はどういうふうにするかっていうこともこれから検討しなきゃいけないわけですけども、設

備は、ことしちょうど長井100年ということで、かなり老朽化して直さなきゃいけない部分がたくさんあります。一般質問でフラワー長井線の線路の下の暗渠の問題もありましたけども、そういったところなども、これは県のほうでやるのか、あるいは市町村でやるか、山形鉄道がやるかっていろいろあるかと思いますが、こういったところも、私どもが、市町村が鉄道事業所になりますと、基本3分の1ぐらいの補助しかないんですね、国の支援を受けて設備をすれば、それがまず、基本が2分の1まで上がります。あと、私ども今、支援してありますが、それに対する特交としては若干あるんでしょうけども、ほとんどはありません。それを地方交付税措置があるということでもありますので、継続して使えるんじゃないかと。あとは、ぜひ県のほうからまた違った形で支援をしていただきながらやっていくしかないのかなと。

鉄道をなくしてしまうと、もう二度とこれ復活することはできませんし、高校生が25年度、昨年からぐっと減ったんですね、ですから県も長井工業高校を1クラス減らされたわけですけど、非常に私は憤慨したわけですが、これからまたそういう第2、第3出てくると思いますんで、それにも対抗できるようなやっぱり経営体を考えていくのがまず基本かなと思っています。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 やはり高校生の足でありますし、また利便性を考えたときに、鉄道がなくなるっちゃうのは自治体としては非常に致命傷というようなことでもありますので、全力を挙げていい方向に努力をしていただきたいなと、そのように思います。

成果報告書の中で、昨年度ですか、経営改善計画というものがつくられたということでありましたけれども、また次の年で経営の見直しをしていかなければならないというようなことが

記載されておるわけで、23年につくったばかりでもう見直しをかけなきゃならないというのは、何か状況が変わったのかとかいろんなことを、今、市長も確かに震災が出たとか、あるいは自動車道での事故とかいろんなことを申し添えたので、その点も含んでいるのかなと思いますけども、それ以外の状況などもあったのではないかと思いますので、企画調整課長のほうからその経営の見直しについて、なぜしなきゃならなかったのか、あるいはどういうところを見直そうとしているのか、その点についてお聞かせください。

○**大道寺 信委員長** 谷澤秀一企画調整課長。

○**谷澤秀一企画調整課長** お答えいたします。

経営改善計画の10カ年計画ですが、これが平成23年度からの10カ年ということで、平成21年あたりからつくり始めたものでした。それを中期計画として実行してまいりましたが、先ほど申し上げましたように、乗客数が減ってきていること、それから収入面と支出面について実際のものと乖離が出てきたということがございます。

主な検討項目として、必要ではないかということで上げられたものが、収入面としては、地元の支援、利用拡大による収入増というのが今後どれぐらい図られるのかと。高校生の伸びというのがやはり見込めないというふうなことから、地元の支援、利用拡大を図る収入増がどれぐらい見られるかということ。これは、データ的に言いますと通勤の利用者なんですけど、数は少ないですけどふえてきているということがわかってきましたので、こういったところを今後もう少し力を入れる必要があるのではないかと思います。そして、運賃についてもずっと値上げせずに据え置きで来ておりますが、こういったところも値上げをした場合、どんなふうになるか、あるいはしないでいくべきか、そういう検討も必要ではないかと。

あと支出面については、運行車両についてなんですが、今の運行本数を維持していくといった場合、このままで大丈夫かというか、これを本数を減らすことによってどんなふうになるか。あるいは、観光事業について、収入の観光事業で上げる部分もあるわけですが、これをもう少し伸ばせることができないか、そういったところを見直しをしながら、今後のその経営改善計画というものを実態に即したような形にしていくなければいけないかということでもあります。

先ほど市長が申しあげました上下分離のほうの検討も必要であると、そういったことから全体の計画見直しが必要だということになったところなんです。

○**大道寺 信委員長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 今、企画調整課長のほうから答弁ありましたけれども、簡単に、なぜ見直ししなきゃいけないかというご質問の趣旨だったと思いますので。企画調整課長は、見直しの方向性も含めてお話ししましたが、簡単に2点でございます。

まず、平成23年度からの新たな経営改善計画というのは、まず震災の影響が出たということと、あともう1点が、値上げをする予定でした、平成25年度から、それをしなかったと。それをしない理由としては、今の時代、上げられないだろうと。それでも低くしろっていう声があるのに値上げをするという計画だったんですね。なもんですから、それを沿線の2市2町に、山形鉄道のほうから改めて確認の意向をとりましたところ、上げるべきじゃないということもありまして上げなかったという、この大きな2点が見直しをせざるを得なかった理由だと思います。あと、見直しの内容は、企画調整課長が答弁した内容でございます。

○**大道寺 信委員長** 10番、町田義昭委員。

○**10番 町田義昭委員** やっぱり見直しをせざるを得ないという状況はわかりました。

しかしながら、この通勤客の利用者の増加とか、地元の皆さんに乗っていただくとか、そういうものっていうのは、果たしてこれから上積みが見込めるのかなというちょっとした疑問はあるんですけども、もはやずっと今まで流れてきた経過を見ると、余り言葉的には使いたくないんですけども、もう限界があるのではないかなという感じするんですけど、この点について企画調整課長はどう考えておられますか。

○大道寺 信委員長 谷澤秀一企画調整課長。

○谷澤秀一企画調整課長 地元の利用ということで言うと、やはり人口も減っております。そういったところで、ある程度の頭打ちというのはあるかなというふうに思います。

ただ、工夫することでもっと乗ってもらえるということもこれから考えていかなければならないと思いますので、その辺を山形鉄道と沿線自治体住民一緒になって考えていきたいというふうに思います。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 あわせて観光事業に力を入れていくというふうなことでありますけども、私もこの3番目にエージェントによる観光誘客活動の状況はという小さなテーマを上げているわけでありまして、今までもなされてきたわけで、震災あったり、あるいは交通手段の状況が変わったりしまして現在に至っていると、これをどうやって打破していくのかという状況の中で、この観光事業によってこれから元へ戻す状態はかなり至難のわざでないのかなという感じしますし、またそれ以上に観光事業によって収益を上げていかなければいけないというような状況という形を、私はなかなか想像できないんですけども、この点について、市長のほうよろしいんですかね、お聞かせいただきたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員がおっしゃるように、

なかなか観光客で年間5万人、10万人というのは難しいかと思えます。今の山形鉄道の経営状況ですが、私も平成24年から取締役の中で、唯一副社長として入らせていただいています。そこで、去年から比べてことし、おとしは緊急雇用で営業とか企画のほうに、何だかんだ言って6名配置されていたんです。それが去年になりまして、3名減らされた、ことしゼロです。ですから、営業、企画する人間がいなくてというのが現状です。

ちょっとにわかには信じられないと思うんですが、人件費っていうのは、もう完全にがちがちに固められてますので、専務が今、空席ですけども、専務の置く予算もありません。それぐらいもう、何というんでしょうか、経営管理計画の中でもうがちがちなんですよ。ですから、どこを削るかっていうと、修繕費削るって、それはやめてくれと、これ事故起きたら大変なことだと。ですから、結局空席で、今現在は社長1人で、ほとんど自分で企画して営業してやっていると。あとは車掌さんがお客さん来たときに、総務部長なんかもあわせて駅でみんなやっていると、そういう状況で何とか2万人ぐらいは何とか来てもらっているわけですね。あとは宮内駅のもっちーとか、ああいうことでいろんなPRをして、全国からいろんな方たちに来てもらったり、あとグッズを売ったりとかして、少しでも、10円でも20円でも売り上げふやそうということで、今もう一生懸命頑張ってるというのが現実であります。

しかし、これをずっと続けていって、じゃあ本当に大丈夫なのかっていうと、これはなかなか難しいと思えます。やっぱり観光っていうのは、野村社長の話ですと、3年ぐらいせいぜいだと、同じ商品は、やっぱり1年、2年で、3年目は新たな商品をつくっていかないと、やっぱり観光エージェントとかお客様もなかなか少なくなってくると。ですから、そういうリピー

ターをどういうふうにふやすかとか、あとは新たな観光資源をどういうふうに地域、市町村と一緒に開発していくかとか、そういったことが重要なんだと思っております。

ちょっと話、長くなって恐縮なんですけど、やっぱり25年度は赤字が非常に大きかったもんですから、この春にかなり厳しいご意見も各市町村から、県からありました。ひどい話ですと、もう朝と夕方だけ2便ずつぐらいして、あと日中閉めとけばいいだろうと。だけど、まさかパートでできるような鉄道っていうのは、従業員がですよ、社員が、そんな生易しいものじゃないですよ、安全管理の部分で。

あと、観光事業をしなかったらいいだろうと。じゃあ観光事業のために、じゃあどれぐらい人を割いているかという、特に人を余計にふやしているわけじゃないんですよ。ですから、私も社員全員とことしも意見交換しましたけども、本当に劣悪な労働条件で、官製ワーキングプアをつくっているというような状況だと私は思っています。給料は上がってませんから、10年も。正社員にしてあげると、やめるんですよ。何でやめるかという、パートのほうが高い、そういう実態もあるんですよ。ですから、これを何とかしなきゃいけないんで。

ただし、廃止してしまったら終わりということで、ぜひ知恵をお借りして、何かいい方法、ご指導、ご提言をいただきたいと思っております。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 正直な話、こういう厳しい状況の話のやりとりになるとは思っていませんでしたから、私も質問事項に非常に今、苦慮しているんですけども。

本当にそういう状況だったら、私たちも一緒に、少なくとも一緒になってそういう認識を共通していくということも必要なのではないかなと思うんですけども、今まではそういう状況をつぶさに聞いたということは実際なかったもん

ですから、とりわけこの観光事業というものに対してこれ以上の誘客というのが考えられるのかなと。

私は、物すごく今まで疑問をしてきたもんですから、やっぱり観光事業というものは、それはみんなが成功する夢を描いているんでありましようけれども、少なくとも、極端に言えば、当たればすばらしい事業だということになるのが観光事業なのではないかなというぐらいの今、認識で、どこの自治体もこの観光というものには力を入れているわけですね。そういう事業で、私は正直な話、この観光というものに対して非常に不確実なところはあるので、その点について再度慎重な物の考えを持っていかれたほうがいいのではないかなという質問をしようかなと思っておったんですけども、その前に市長にその状況を聞かせていただいたというようなことで、この観光というものに関しては、本当にやはり限度があるということ、もし考えられるのであれば、やっぱりそれなりの決断ということも市長として、リーダーとしては考えていかなければいけない一つの分野でもあるのではないかなというふうに私は考えているんですけども、その点について、市長、いかがですか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 観光の事業をやめるっていう選択肢もあるのかもしれませんが、鉄道の中で。結局、赤字はどんどんふえてくというものを覚悟しつつ、余計なことを一切やらないと、高校生の足に撒くという考え方でどうなるかっていうシミュレーションを上下分離方式とあわせてしていきたいと。

あと、上下分離方式をやりつつ観光もやっていくというやり方についてもやっていきたいと。例えば、やっぱり沿線の南陽、川西、長井、白鷹というのは結構な資源がありますので、そこをうまくつないでいって、その市とか町と一体となって山形鉄道がやっていく観光のあり方、

私個人としては、前、花公園っていうのがあったわけですけど、花公園によって相当、野村社長と話してたのは、いろんな観光ツアーが組めると、春、夏、秋、冬と、それで10万人目標でやろうということで、これをやると長井の町もよくなるし、フラワー長井線に来てもらえば、フラワー長井線も赤字を解消、少しでもできるしということでやったんですが、残念ながらこれはなかなか理解してもらえないということで、時庭駅と成田駅はガーデンを駅につくったんですね、これをこういうボランティアで全部の14の駅ですか、それに駅にガーデンをつくって、それを見に来てもらうとか、そういったお金のかけないやり方でやっていくか、そういったところをきちっとシミュレーションして検討していかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 今の将来の方向性というものについて市長は話をされましたので、私はこの点については理解をしたいなと、そのように思います。

やはり高校生の足の確保だけは、これは絶対にやっていかなければならないわけでありまして、これは長井市一つの自治体でやろうとするものではもちろんないし、沿線自治体だけのものでもないし、やっぱり県ぐるみの大きな課題であると、そのように認識しますので、全部県のほうで長井市あるいは沿線自治体が努力しなければ、補助金云々というものが物すごく今まで強かったように感じますので、この点についてもあわせて県のほうにも話をしていただきたいなと、そのように思います。

確かに利用促進に係る啓蒙活動ということを沿線住民の方に対してやってこられているわけでありまして、同じ長井市の中でも、時庭駅協力会とかあるいは中央の駅もあると思いますし、きのう、おとといだか致芳の成田駅で

も何かイベントがあったわけで、一生懸命なされているんですけども、どうも私にとっては何かむなしく感じることもあるんですよ。それは、駅そのものの活性化でなくて、その地域地域のやっぱり活性化につながることでありますので、そのイベント自体はありがたい話だし、また一生懸命やっている姿には敬意を表するんですけれども、何か今まで時庭の駅協力会の総会なんかには毎年出席させていただいてる中で、本当に100%ボランティアの形で皆さん頑張っておられるわけで、ああいうものに対してこのままでいいんだろうかというような、私は感じておることがございます。別に地域の皆さんが不満で、私たちはやっていけないんで助成金をもっとふやしてほしいなんていうことは一切言わないんですけども、もう何十年も同じような状態で、除雪機1台買うにも、本当に何ていうか、行政に対して言いたいけど言われないような状況の中で毎年毎年補助金をいただいて、その中から積み金をしていると、何か変な状況つくっておるんですけども、ただ、フラワー長井線の状況を考えれば、フラワー長井線自体からはそうしたお金はやれないとしても、長井市全体のやっぱり事業であるという認識を2万8,000人の市民の皆さんはしていかなければならないのではないかなというふうにちょっと思っていますけれども、その点については、市長どのように考えておられますか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 駅協力会、市内の駅にはそれぞれつくっていただいて、本当にボランティアで自分たちでその駅を守っていくと、それはすなわち地域の子供たちを通学できるような環境をつくるんだということで頑張っておられることに、町田委員と同じように私も大変ありがたく、敬意を表したいというふうに思います。

ただ、今までの状況で、そういう駅の協力会なんかも一つ例として、我々長井市として、そ

こんところは好意に甘えていいのかと、ある程度必要なものについてはちゃんとこちらで準備しなきゃいけないんじゃないかということについては、私もぜひ来年からはそうしなきゃいけないだろうというふうに思っているところがありますし、あとは山形鉄道の将来については、これは、どうしても日本はこれは藻谷さんって、あの日本政策投資銀行で、今は日本総研の主席研究員の方のお話ですと、どうしても日本では鉄道という収益が上がるもんだと、上げないと、これを廃止して当然だというふうにとられてしまったんですが、でも、ヨーロッパとかアメリカとか、あるいは第三世界のほうでもそうじゃないと、これは必要な社会資本だと、道路と同じだという考え方で、赤字、黒字にかかわらず、これは地域の資源として残さなきゃいけないって考え方ありますので、これはぜひ県と沿線の二市二町、あと周りの山形県民の皆様にもご理解いただいて、やっぱり何としても残すと、そのためにさまざまな経営形態どれがいいか、ぜひある程度1年、2年しか時間はないと思います、議論をしてよりよい方向を探っていきたいというふうに思っております。

○大道寺 信委員長 ここでは暫時休憩いたします。再開は3時25分といたします。

午後 3時06分 休憩

午後 3時24分 再開

○大道寺 信委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

町田義昭委員の質疑を続行いたします。

10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 6番目の沿線自治体に温度差が生じていないかというような質問事項はあったんですけども、市長からの答弁とかご

意見をお聞きした中では、これ以上の質問に値するような項目ではないなというふうに判断しましたので、ここは割愛させていただきたいなと思います。

この5番の管理面の役割分担ということについても、非常にこまい話になって恐縮なんですけども、今までの話の中では、そこまでフラワー長井線に要求しても無理なのかなというような、本当にむなしい言葉になってしまうんですけども。

私も長井駅のほうにそんなに回数行かないんですけども、1年に2回ぐらい行きます。この間も10日ぐらい前にちょっと行ってきたんですけども、前にも高橋議員のほうからも質問あったような記憶しているんですけども、行政の分野とあとフラワー長井線の分野というこの区分というのはどの辺になっているのかなと、ちょっと曖昧なところもありましたので。ちょうど南側のあずまやの付近から南にかけて、柵がありますね、その辺はすごく草が茂っておって、いい景観でした。わざと草をおがしたのかなと私は思いました。と申しますのは、北側のほうはきれいになっておって、こちら側ずつとなつて、これはわざとしていなければこういう状態にならないのかなというふうに感じたんですけども、でも、一応問わなければいけないのかなと思ったわけで、その点の線引きというのはどういうふうになっているのかお聞かせをいただきたいな。これはどの、企画調整課長でよろしいのかな、あるいは市長ですか。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 この件については、前のまちづくり交付金事業で、駅の親水公園ということで整備をさせていただきましたけども、その担当がまち・住まい整備課になっております、あと建設課のところと、あと山形鉄道のところといういろいろあるんですが、この件については、まち・住まい整備課長のほうから答弁いたさせま

す。

○大道寺 信委員長 鈴木一則まち・住まい整備課長。

○鈴木一則まち・住まい整備課長 お答えいたします。

私のほう、まちづくり交付金事業で、平成22年度にいわゆる中道地区の杉林の部分の湿地帯というふうな形になってる部分を、杉林を切らせていただいて要望にお答えしながら、長井駅の西広場という形で公園整備といたしますかをさせていただいております。管理区分としては、ちょうどいわゆる線路と公園の間にあります柵をずっと設けておりますので、そちらの東側分の軌道敷内につきましては山形鉄道、それから西側についてはまち・住まい整備課で担当しているということでございます。

現状では、町田議員ご指摘のとおり、南側のほうは住民の方々のお手伝いもあったりいたしまして、きれいな形で見通しがいい形になっておるんですが、現実的にあずまやより南側のほうはところどころ、この公園の広場の中も草が大変生い茂る箇所が多く見られておまして、現状としては私どものほうでも管理の部分で再検討が必要だというふうに考えております。

現在、発注は行っておりますが、今後の私どもの所管の部分のこの広場の扱いにつきましては、現在まではどちらかというと駅協力会や、それから中道の皆様の協力というふうなことも期待しながら管理をしてきたわけですが、行政としてのきちっとした定期的な管理という部分では、やっぱり不十分であったというふうに考えております。ですので、今、最上川河川公園で行っているシルバー人材センターさんのほうに、週1回の定期的ないろいろ清掃業務を委託する際の点検といたしますか、そういうような形でお願いをしている関係がございますので、私どものほうのやはりなかなか目の行き届かない部分を定期的な部分でそちらのほうを今後手配

などをさせていただいて、同じようなシステムの中で、この広場についても管理をしていきたいというふうに考えているところでございます。

なお、近々に南側のほうの部分につきましては、除草作業などを行う予定でおります。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 私が言いたいのは、その役割分担をやはりきっちりして、与えられた役をそれぞれが全うしていただければよろしいのではないかなということをお願いのわけではないかなということをお願いのわけではないかなと、別に草を刈ってくださいとか、そんなことは一切申し上げません。それぞれ草が生えておるのも景観の一つでありますし。

ただ、ちょっと気づいた点、こまい点ですけども、あのあずまやの下のところ川が流れておって、そこに草が入っていかないように網がかかっているわけですね。あそこに一工夫あったらなと感じました。

ということは、あそこに草がぎっしり詰まっておって両方が流れないというようなことで、何か棒を探してきて、私が一人でこうしたら、何か蛇の死骸なども出てきたり、いろんなことがあったんですけども、そういうものは何も役割分担とかそういうのじゃなくて、やはり何かちょっと気がついた人は草を取ってくださいぐらいを一句書いていただいて、何かかき出すものを下げていただければ、あそこを散歩したりした人が取ってくれるんじゃないかなと、私でさえ気づいたんですから、できるんじゃないかなと、そのように思ったんですけども、まち・住まい整備課長はいかがですか。

○大道寺 信委員長 鈴木一則まち・住まい整備課長。

○鈴木一則まち・住まい整備課長 大変ありがとうございます。そちらのほうも工夫いたしまして、いろいろ手配をしたいと思っております。

それからあと、水路の水についても、実は勾配がちょっと足りなくて、流れが悪いというふ

うなことがご指摘を受けてますので、今後改良の余地もあるというふうに考えておりますので、検討してまいりたいと思います。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 最後になるんですけども、先ほど市長が今後のフラワー長井線については方向性をきちっと出していく時期に来ているなど、そう感じているとおっしゃったわけで、県とのやりとりで、いかなる方法であっても、やはり結論というものは市民に示していかなければいけないのではないかなど、そのように考えております。その点について市長は、いつまでというそういうこまい話でなくて、とにかく何年とか、あるいは状況が固まる時期というのはどの辺を想定しているのか、その点、最後にお聞きをしたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 町田委員がおっしゃる結論というところがよくわからないんですが、私は結論というのではないです。これを廃止をしてはいけないと思っています。ですから経営のあり方についての方向性ということで、方向性という結論はあるんですが、廃止という選択肢はないと思っています。これは絶対すべきじゃないというふうに思ってます。方向性については、これはやっぱり長井市だけで決めることではありませんので、筆頭株主は県ですから、私どもも第2の株主ということになるんですが、やはり合議制でやってまして、代表取締役は取締役での選任ということなんですが、代表取締役だから社長だから権限があるかということ、私も経営の中に入って見て思うんですが、運営を任されていると、経営ではありません。したがって、経営の責任は我々自治体があるんだということを改めて感じていかないと、なぜかということ、経営計画というのは県で決めてるんですよ、基本的に。我々も一緒に合意はしますけども、そうしますと、その経営に従ってやらなきゃいけ

ないわけですよ。事細かく運営の人員費はこのぐらい、維持修繕費はこのぐらい、全部決めるわけですよ。それをただ、それに従って運営していくっていうだけです。ですから、経営ってという感覚ではおよそないです。

結局、運転資金なんかも、通常の運転ベースのお金があるだけで、事業費なんていうのはありませんので、ですから、そういう意味では非常に難しい運営なんだと思いますが、まずは上下分離方式をしっかりと検討、あるいは沿線自治体と協議して、どういう形の上下分離方式がいいのか、そして、あと経営の方向を最小限の朝晩しかしないのか、あとは、ある程度観光も含めてもう一回沿線の住民の皆様に乗っていただくような工夫をして、むしろ便数をふやすということもあるわけですよ。車両も、もう限界に来ておりますので、車両をどうするかも含めてかなり課題はいっぱいあると思いますが、やっぱりこれは恐らく1年、2年以内ぐらいに決定しなきゃいけないと思ってます。これは全体で決まったことを私それぞれの沿線の市町村、あと県のほうでやっぱり県民に、市民、町民に知っていただくようにお知らせしなきゃいけないと思ってます。

○大道寺 信委員長 10番、町田義昭委員。

○10番 町田義昭委員 ぜひ市民の方にもフラワー長井線の状況などもさまざまな機会を捉えてお知らせをしていただければありがたいなど、そのように思っております。

これで質問を終わります。ありがとうございます。

高橋孝夫委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位3番、議席番号14番、高橋孝夫委員。